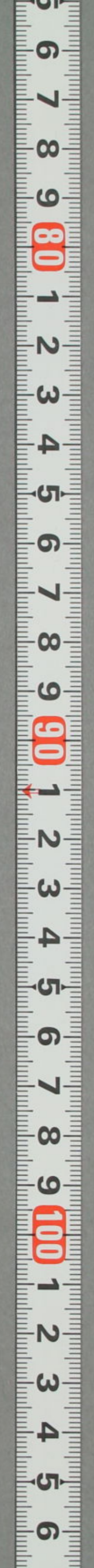




大正名臣記

第十七
第 大郡

特別
ル
3979
13



門 4
號 3979
卷 13



和州舊跡幽考目錄

第十七卷宇陀郡

宇陀野

氷室

男坂 ○ 墨坂 事

墨坂神

血原

八咫鳥社

兩太神宮鎮座 事

朝原

室生山

高倉山 女坂 ○

穿邑

訶史羅前

秋宮 付 巻 播 ○

神戶

竹川

龍穴社



昭和二十七年
三月十八日

鶴山

王の事

第十八卷城下の郡

屏風里 鏡作社 付 神階事

釋人池

宮古杜

坂手池

法貴寺

村屋神社

三宅道

大藏寺 付 愛深明
延喜式 神名帳

黒田郡

鏡池

法樂寺

坂手

大安寺村

母宮

神山

延喜式 神名帳

和州舊跡幽考第十七卷

宇陀郡

菟田日本 宇陀又八字 太延喜式 宇多倭姫 宇世紀

宇陀野

宇陀の町より一里なほり 巽萩原村ありそ

きより一里なほり 水までとむの極野と

いひはるえ 傷れはけ 西よりぞあつめ 宇陀野

と禁野より 傷るより 身百首よみより

擬古天皇十九年六月日よ 兼將と菟田野

よ 志路小晴と 射よりめて 萩原乃池乃 射よりよ

あひありて それより 供奉さしきり あり 徳良

がひののさぬ乃 文心よ 志路が 小冠と 著しと

女坂男坂墨坂乃名と云ふ所ありむ先傳
 實見村也山所云は因見山と云ふあり又
 勢別と宇陀の郡より山見也といふ
 あり後の大さざらふし

神代天皇菟田乃宮倉山を尊りて城津と
 云そより後少時因見岳の上ハ八才梟師を
 置て天皇よ歡一を於女坂よ女乃軍男坂よ
 男の軍と墨坂よ麓と焼てと死たり天
 皇ウ乃八才梟師と討たり後ハ死女坂男坂墨
 坂の名これよりありまゝり日本

墨坂神 而しり

崇神天皇九子由夏乃名よりて四月一日墨
 坂の神と祭らるる後より日本紀より

宍谷邑

宇陀乃町より巽の方二里俗に宇賀志村
 と云ふし一凶徒と神遊乃而といへり
 神代天皇國くととらげ後ハ中列よ全路
 ひまんと山所よりしを後よと険絶道終
 あり爰よ天照太神の由夏のと人乃まよハ
 恐鳥飛来よりそれが行方よまごひく遺み
 勢一海一志くば然よ免田乃ト縣よはく勢後
 ひその所と菟田の宍谷と云づまゝり

血原 而しり

神代天皇みとのりて天孫見櫛おのひ
 田為よ一海一志くばとめし後ハ

太神の河邊座取といへりは西よ山邊
の赤人乃石塔あり

宇多秋宮の史天照太神皇御孫八世命と云はれ代
とまをせ後ひくは海座取と云ひめり後
人王十代崇神天皇六十年豊鋤入姫命我
目野姫と云ひ死す時逢ふて侍る倭姫命と云
杖代といふは是より倭姫命天照太神と載
なり大和國宇陀の秋宮よ去りて
と云ふより後依りて波多宮宝基本 紀條藩それより倭
國淡海國越後國伊勢國若野代宮同阿佐加
藤方所植宮同飯野宮同伊勢宮よ所鎮
坐内くして高仁天皇女六年十月に度過
于鈴川よ上祠なるよりくは倭姫世紀よあり

泊瀬朝倉宮雄畧の河宇女二年七月止由

氣皇太神但波國若佐宮よりり後ひく

倭國宇太宮よ一宿ましくして伊勢國六徳

宮よ二宿いそそそれより往々離宮よ

と云内り終ひて九月小伊勢國山田系の新

殿よ去りて終ひて終末本紀よよりくあり

神戶

苗世宇陀の町より宇陀町押の旁よ俗

皇太神の鎮座乃終とて小社ありを亦

の若代神戸といへり

天照太神宇陀乃秋宮よ西よ世いひなる乃

時倭國造采女香刀比賣比乃御回となれ

倭唯是宇陀の神戸ありは亦その回をば

いして八つあり後摩他より行 龍穴の女のと
ひいて風をやどり 伽藍堂とくくへて
霧をきく 宝鏡響ありて 龍穴の 斯る靈函を
さばせの人 女人の高野ともいひ

▲寺領ハ真福寺の沖末平内なるあまのや
住持職ハ西大寺指提寺戒壇院乃律宗の中
よ名くび真福寺の僧侶二人一麦乃後番と
せしむるあり

龍穴社

室生山室生乃鎮守ありて麓よの海
跡穴社の元来ハ秋乃慶名室生山よの
新奉一千日物河橋とさわり容儀體
果麗ある女乃顔ありて慶山よの

又改名して法如とて室よのわりとむとびて
紫雲菴と号し 伏木澤土乃印ハ心よの海に
終よ浄土曼陀羅と名く 徳生の志懐とくけ
あり 西曼陀

大藏寺

大藏寺乃町より一里なり 麓よ栗野
とよありあり それより坂よの海 奉八町
雲管山醫王院大藏寺ハ本名薬師如来
監臨ハ上官太子乃由茶創其後役小角徳行
の地とさうあり 後ハ弘法大徳徳天
乃劫とてを堂宇と建 立とて 弘法徳天
皇の震業乃大藏寺の額今よあり
皇靈堂ありて乃中よ小佛ハ愛深明王長二

鳥木の室生毛桃本志げ之新大長御とあり

鶴山

紀伊国佐田郡又大和国宇太郡の古蹟

あり 百曼陀

鶴山紫雲菴ハ中納言法如屋乃因統の比ま
りそれよりして入て屋の任院として勅行今
よ後を中納言の横佩右大臣豊成乃息女
ありしが継母の徳よりしてひたり山よとて
そひおつて父大臣鶴山よ符ありて後
もぞ不意對面して右のよりしてひたり
厭離穢土乃心法やう佛経の雷麻寺の實
惟法師とありてうまとあり善心屋とあり

味坂比賣命神社

御井神社

岡田小秦命神社

神御子彥平頼比賣神社

梯寶神社

劍至神社

室生龍穴神社

都賀那木神社

和州舊跡幽考第十七卷

和州舊跡幽考第十八卷

城下郡

屏風里 黒田村北十四五町

聖徳太子熊鷹より橋の宮より海まで延びた
道遠しとてありしより此道とひくを直
造踏とていふ事候とて供御とせらるる
此の屏風とていふ事あり
玉林

黒田郡

由世黒田村北を北西に宮古村とあり

黒田郡

黒田郡の卷安天皇御宇百二十年正月
より後ひくは十二月人王七代孝靈天皇
御宇より後ひくは廬戸宮とていふ事あり
日本

延寶七年（一）もて凡一千九百五十二多り

鏡作社ハ尾村あり

鏡作社二座一座ハ鏡作麻氣神ハ神ハ天標

戸余あり一座ハ係多ノ神社ハ神ハ石凝塊余

兼記石凝塊余ハ天標戸余ハ由あり

柞石凝塊神ハ天照太神若戸ありハ世傳ハ

時天香山ハ洞とりて目像ハ鏡作社ハ

神あり古語拾遺

神階ハ貞觀元年正月廿七日從五位上三代

その後之位とるハ實録

鏡池

鳥井ハ肉ハありハ倭ハ神代ハ鏡ハ池ハ

池ハ水ハ傳ハりハ

みゆびの池ハ鏡ハ池ハとハいハふハるハ池ハとハいハふハるハ池ハ

韓人池

二階堂ハ南八尾村ハの池ハ唐子村ハの池ハ

とハいハふハるハ池ハ

韓人ハ乃池ハ應神天皇七年九月高麗人百餘

人新羅の人等ハとハいハふハるハ池ハ

韓人ハ乃池ハとハいハふハるハ池ハ

給ハひハくハ輕鴻ハ乃明宮ハとハいハふハるハ池ハ

宝七年（一）もて凡一千四百三年（一）

新六宮ハ乃宮ハの首ハよりハはハりハとハいハふハるハ池ハ

法樂寺

寺領六石四斗余真言宗

黒田村ハ乃ハありハ曾ハ氏ハ川ハ乃ハひハひハがハ

法ハ不ハ寺ハ本ハ乃ハ勝軍ハ地ハとハいハふハるハ池ハ

法ハ不ハ寺ハ本ハ乃ハ勝軍ハ地ハとハいハふハるハ池ハ

孝靈天皇ノ陵地ありて聖德太子ノ開基と
しりさし傳りあるもや此れと孝靈天皇ノ
陵ハ高下郡所丘ありあり延喜式あり
此れと孝靈天皇ノ馬田ノ皇居の
伝りや

宮古森

大和國類 三橋山ありて西ノ宮古村

と云あり三橋乃海砂也

坂手

みくろを楯ありおて水薙れ穂積といこ
己多細なる坂門とて伝り身南飯山
よ朝宮よけ久まつりて吉野へと入るん

きバビウイサ由

反歌

月日もろり初も久三諸ノ山あり宮地
坂手村ありありけ東ノ浦津村ありあり
穂積乃所言つ方葉集よとてぐらとあり
よりおてともあり行跡とせよ平城
宮より下津道と強く須知加部路よ
せむに十市郡穂積とて式下郡坂
もよのり茅野よ越けりあり身南飯
三諸乃山ハ三橋乃社ありんり日本紀ノ天
已貴き我三諸山よとくありんり宮人
坂手池

景行天皇五十七年九月、彼子乃池となり堤
乃上より下り入るとあり日本紀

大安寺村

大安寺ハ奈良ノ大安寺資財帳ノ如ク十
六慶乃唐堂ノ内ノ式下郡村屋トノを
をるハは正あり

法貴寺 寺領十七石五斗

法貴寺實相院ハ傳國聖德太子ハ建立
あり衰破して一字跡あり本寺ノ藥師如來
ハ百餘圓あり朱朝ト云へり

秋宮

法貴寺ノのりりノ禿倉あり俗ノ在立
中ノ傳佛秋宮ト云へりハはまきと云へり

わくしまへ長谷川堂ニ守後させり

よりはたありわくしりハははつり
太田余記曰倭皇逢色ノ磯城乃龍
ハはる春あり也逢色ありん秋宮

乃りあありハはりひれり又目
本紀ハ御所秋宮トありは時乃野の
まゝやありんこゝてありんるふ

逢色

逢色ハ崇神天皇乃は時神代り代ハ
十代ハ百餘歳よりて神璽鏡
也也殿也也あまもせ給ふ事や
神威と云へれ後ハハ脚伝ハハ已也乃
ハ神代乃りハはは石凝姥神乃神子

とめ一鏡試うに一力をさすめ天因一箇乃
神乃物ふとめて鏡とほつらう一め大和乃
院郡中へはあ種とらに一あはる高き
死護身乃とら一として同殿よ安玉^{安玉}給ふ
日本^{日本}正統^{正統}記^記神^神璽^璽鏡^鏡釵^釵是^是あり若^若ほけて肉^肉付
不^不とそ^そ以^以古^古語^語叔^叔神^神代^代あり^{あり}た^たら^らり^り一^一實^實
鏡^鏡お^おあ^あひ^ひ靈^靈釵^釵と^と八^八皇^皇女^女豊^豊鋤^鋤入^入性^性余^余氏^氏とて
大^大倭^倭笠^笠逢^逢乃^乃色^色と^とあ^ああ^あの^の神^神藤^藤氏^氏速^速
天^天聖^聖太^太神^神と^とあ^あが^がめ^めま^まる^る是^是あり^{あり}一^一神^神宮^宮
宮^宮若^若別^別よ^よあ^あま^まる^ると^と死^死神^神乃^乃と^と一^一人^人あり^{あり}て^て豊^豊鋤^鋤
入^入姓^姓余^余神^神林^林と^と以^以戴^戴て^てと^とあ^あく^くと^とめ^めり^り姓^姓ひ
き^きり^り正^正統^統記^記笠^笠逢^逢邑^邑よ^よま^まつ^つり^りゆ^ゆは^は道^道よ^よ宮^宮人^人と^とま
夜^夜も^もま^まら^ら酒^酒の^のま^まら^らふ^ふ次^次

宮人乃若乃まらうあつと海一山死乃ま
とら^{とら}ま^まら^らう^う一^一
是^是代^代今^今像^像う^うと^とあ^あく^く
宮^宮人^人乃^乃若^若乃^乃あ^あり^りゆ^ゆと^と海^海一^一山^山死^死乃^乃ま
ゆ^ゆは^は道^道よ^よ宮^宮人^人と^とま^まら^らう^う一^一
村^村屋^屋神^神社^社
像^像よ^よ若^若乃^乃社^社と^と以^以法^法法^法と^とま^まら^らう^う一^一
森^森屋^屋乃^乃ま^まら^らう^う一^一乃^乃西^西嶺^嶺乃^乃地^地を^をれ^れは^はま^まれ
より^{より}森^森屋^屋を^をし^しあ^あよ^よと^とあ^あり^りめ^め大^大安^安吉^吉
資^資賦^賦帳^帳と^とま^まら^らう^う一^一追^追村^村屋^屋村^村と^とま^まら^らう^う一^一
於^於清^清乃^乃ま^まら^らう^う一^一乃^乃肉^肉よ^よ中^中津^津道^道あり^{あり}又
ぬ^ぬ十^十町^町を^をら^らり^りと^とり^りて^て大^大井^井乃^乃井^井と^とま^まら^らう^う一^一
不^不あり^{あり}若^若陵^陵あり^{あり}

